

子どもの本と文化を、
子どもの未来のためにー

大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE for CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

REPORT

No.07
2017.9

編集・発行／一般財団法人
大阪国際児童文学振興財団
〒577-0011
東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL 06(6744)0581 FAX 06(6744)0582

<http://www.iiclo.or.jp/>

二回めの 任期をむかえて

理事長 宮川健郎

大阪国際児童文学振興財団の理事長に就任して、まる二年がたちました。すでに、理事長の一期めの任期を終了し、2017年7月1日付で二期めに入りました。第一期のあいだには、財団の仕事をひととおり経験することができました。

「口産 童話と絵本のグランプリ」と「国際グリム賞」は、財団の二大事業といえます。

「口産 童話と絵本のグランプリ」は、今回で34回をむかえますが、12月にはまた、最終選考委員会が開かれます。こしは、どんな作品がえらばれることになるのか、いまから楽しみです。

世界の児童文学研究者を顕彰する「国際グリム賞」は、金蘭会と共催の事業です。贈賞は隔年で行われますが、昨年度は「選挙年」、今年度は「贈賞年」にあたります。このたびの「第16回国際グリム賞」を受賞されるのは、アメリカのロバート・シーリング・トライツ博士、特に思春期文学のすぐれた研究者です。贈賞式とトライツ博士を講師とする記念講演会は、来たる10月1日の午後、会場は国民會館・武藤記念ホールです。

ふだんは東京で暮らしている私は、大阪の施設にくわしくありません。贈賞式会場へのアクセスについて、インターネットでしらべてみました。旧ビルが1933年にオープンしたという歴史のある会場は、地下鉄「天



満橋」駅からすぐのようです。

私は、三宅興子前理事長から引きついで、大阪読書推進会の会長もつとめています。大阪ことも「本の帯創作コンクール」などを主催している団体です。6月には同会の総会が、コンクールを共催している朝日新聞大阪本社の会議室で開かれました。大阪本社ビルの最寄り駅は、京阪線の「淀屋橋」や、地下鉄の「肥後橋」「淀屋橋」です。

まるで、大阪橋づくしです。大川、堂島川、土佐堀川……橋の名前がついた駅名から、大阪が豊かな川の町であったことが思い出されます。そして、私が大阪に行くたびに泊まるようになったホテルは、「京橋」にあるのです。

先の二つの事業だけではなく、財団は、さまざまなイベント、研究活動や紀要の編集・発行、メールマガジンの発行、出版社等からの寄贈資料の受け入れなど、たくさんの方の仕事をしています。それでもまだ、財団の現状の底には、子どもの本をとおして、世界の子どもたちの未来をひらく新しい可能性がひそんでいるのではないかと、数多くの橋がかかり、大阪の町を流れる川のような力をもとめて、理事長としての二期めの任期をすごしたいと考えています。皆様のいっそうのご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。

子どもたちにマンガの楽しさを！ 「マンガのひみつ大冒険！」公開

日本の文化の一つであるマンガの楽しさを子どもたちに伝えたい！そんな思いでインターネットサイト「マンガのひみつ大冒険！おすすりマンガがいっぱい!!」を平成28年度の子どもゆめ基金の助成を受けて作成しました。1950年代から現在までの204タイトルのマンガを専門家とともに選び、ストーリー紹介、キャラクター紹介、キーワードなどを付与し、作品名、著者名、キーワード、ジャンル等から作品を検索できるようにしました。また、表紙画像のほか、著作権の許諾を得られた作品にはキャラクター画像と見開きページも付与。どんなマンガを読んだらいいかわからない子どもへの読書案内や、学校図書館や公共図書館のマンガの選書支援を意図しました。

それに加えて、コマ割り、吹き出し、効果線など、マンガのしくみを、「怪盗入パングール」(佐々木マキ作)を例に、クイズなどを解きながら遊び感覚で学べるコーナーも作成。学校での読書活動の時間や国語の時間にも使えるプログラムを目指しました。子ども向けには「おすすりマンガはこれだ！ゲーム」もあり、YES/NOに答えるだけでおすすりマンガが紹介されます。選んだマンガにおすすりを書いて送ったり、他の人が書いたおすすりを読んだりできるインタラクティブの要素も加えました。マンガから読書を広げることを想定して、当財団のインターネットサイト「本の海大冒険」とも連動させ、例えば「戦争」をテーマにしたマンガの一覧の後、同時に、同じテーマの絵本や読物の一覧も見る事ができるようになりました。パソコンからでもスマホからでも見られます。ぜひ、サイトを訪れてマンガの楽しさを体験してください。



国際フォーラム

いま、アメリカの子ども本を考える

アメリカ合衆国の歴史学者で児童文学評論家であるレナード・S・マーカスさんが来日されることになったため、「いま、アメリカの子ども本を考える」と題して国際フォーラムを開催しました。

フォーラムでは、マーカスさんが「アメリカの子ども本は何を語ってきたか」というテーマで、アメリカの児童文学史を一七世紀から二一世紀までを画像で示しながら一気にご紹介され、アメリカ児童文学史を概観することができました。

次に、当財団特別顧問の三宅興子さんが、「アメリカの子ども本の本を、私たちはどう読んできたか」というテーマで、江戸時代から現代までの日本でのアメリカ児童文学の受容史を概観されました。アメリカで人気の本が必ずしも日本で訳されていたわけではないこと、戦前にもニューベリー賞やコルデコット賞の受賞作品が翻訳されていたことなど、日本独自の受容のありようが語られました。

その後、マーカスさんと三宅さんによる「いま、アメリカの子ども本を考える」という対談が行われました。アメリカで注目の作家、アメリカの出版の現状、マーカスさんの著書「おやすみなさいおつきさま」ができるまで（評論社二〇〇一年）『アメリカ児童文学の歴史・三〇〇年の出版文化史』（原書房二〇一五年）等について、子ども本の歴史を研究する意義など、幅広い内容について意見

がかわされました。

■日時：平成28年5月22日（日）

■場所：大阪府立中央図書館（日）

■講師：レナード・S・マーカスさん（歴史学者、児童文学評論家）

■通訳：前沢明枝さん（翻訳家）
横山力志さん

■参加者：85人
日本イギリス児童文学会

■協賛：サントリーホール
ディングス株式会社
パナソニック株式会社
株式会社富士通システムズ
アプリケーション&サポート、
ムサシ・アイ・テック株式会社

*子どもゆめ基金助成活動
○報告集（10000円・税別）を販売しています。



子どもの本の展示とイベント 「世界のおいしい絵本展」

「食」をテーマに、世界各国の食べ物や飲み物、お菓子、食べる場面や料理する場面などを掲載した絵本（大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵）を約100点展示したほか、クイズや飛び出すカードづくりなどの「いろいろあそび」コーナー、「わたし／ぼくの好きな食べ物」メッセージコーナーなども設置しました。



開催日：平成28年7月23日（土）
8月7日（日）

場所：万博記念公園内 EXPO'70パビリオン

参加者：1818人

主催：当財団、一般社団法人関西環境開発センター
後援：大阪府立中央図書館
*日本万国博覧会記念基金助成事業

〈関連イベント〉

おはなし会

「世界のおいしいおはなし」

開催日：7月23日（土）

おはなし会2回

出演：おはなしポップ参加者：83人

ワークショップ 「おもしろさが飛び出す絵本をつくろう」(7月30日)

開催日：7月30日（土）
講師：土居安子（当財団職員）
参加者：21人

のりものだいすき おはなしだいすき

貸切モノレールの中でおはなしを楽しみ、彩都西の会場で人形劇を観る「おはなしモノレール」を実施しました。平成28年度で10回目となります。

開催日：平成28年9月17日（土）
定員：240人
出演：職員、おはなしポップ、人形劇団なんじやもんじや等

協賛：大阪高速鉄道株式会社、阪急不動産株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション
*子どもゆめ基金助成事業

目録 童話と絵本のグランプリ

アマチュア作家を対象にした創作童話と絵本のコンクール「第33回日産童話と絵本のグランプリ」を実施しました。審査の結果、入賞作品38編を決定しました。

○応募数 童話の部2177点、
絵本の部324点
計2501点

○童話の部 大賞
「こめとぎゆうれいのよねごさん」
えばたえりさん

絵本の部 大賞
「ギユッ」
ミフサマワカシヨさん

○表彰式 平成29年3月4日（土）
大阪府立中央図書館ライティホール
協賛：日産自動車株式会社

また、第32回童話の部大賞および絵本の部大賞作品をBL出版から平成28年12月に出版しました。

童話の部「日曜日の小さな大ぼうけん」



愛川美也/作
みやざきあけ美/絵

絵本の部「ちかしのなかで」



横須賀 香/作

子どもに本を 手渡す人のために

講座への講師派遣

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員、保護者や子どもの本に関心のある人等を対象とした、本の選び方や読書活動のあり方に関する研修や、本の楽しさを伝える講座、講演会、読書会の講師として、総括専門員、特別専門員を派遣しました。
実施回数：50回

審査員・委員など

左記の事業に、審査員や委員として参加しました。
・第12回大阪こども「本の帯創作コンクール」
・第26回賞面手づくり紙芝居コンクール審査員（賞面市教育委員会・人と本を紡ぐ会）
・平成28年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）
・第35回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府民文化部）
・「コープのえほんでスマイル」専門委員会（大阪いずみ市民生活協同組合）他

子どもたちに おはなしの楽しさを



大阪府立中央図書館との連携
大阪府立中央図書館こども資料室

ではなし会6回を開催しました。
出演：職員、おはなしポップ

絵本づくりワークショップ

「森とこどもたちになろう!」森の絵本づくり」
開催日：平成28年10月22日（土）
23日（日）
場所：大阪府立少年自然の家



小学校や図書館でのおはなし会

吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会（2回）
出演：職員、おはなしポップ
豊中市立東丘小学校等での小学生を対象とした、物語体験ワークショップ（9回）

児童養護施設でのおはなし会

大阪府域の児童養護施設8カ所ではなし会または人形劇を開催しました。

おはなし会6回、人形劇3回

出演：おはなしポップ、人形劇団ワラルテ

一般財団法人高津成和会助成事業

「中韓子ども童話交流2016」
日本、中国、韓国の子どもたちと一緒に絵本作りをしました。
開催日：平成28年8月17日（火）
23日（日）

場所：北京（中国）
参加者：100名
主催：日中韓子ども童話交流実行委員会

「おはなしポップ」の財団事業への参画
子どもと本をつなぐさまざまな事業に当財団所属のボランティアグループに参画していただきました。
また、「おはなしポップ」は、絵本やおはなしに関する研修を3回行いました。

街頭紙芝居の実演

「むかしの紙芝居を楽しもう」
開催日：平成28年7月20日（水）
場所：大阪府立中央図書館
出演：一般社団法人塩崎おとぎ紙芝居博物館
主催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 当財団
協力：一般社団法人塩崎おとぎ紙芝居博物館



ほんナビぎっず 子どもの本をあらすじ、 キーワードから探そう

「ほんナビぎっず」はインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムです。
キーワード、あらすじは当財団で独自に作成。28年度は1792冊の本を追加しました。
共同開発：株式会社富士通システムズ アプリケーション&サポート

ドキドキ絵本づくり for Kids

平成25年度に開設した、インターネットを見ながら絵本の作り方を体験することができるウェブサイトを「ドキドキ絵本づくり」にリニューアルし、ついて、チラシの配布や、ワークショップ等を通して普及を行うと同時に、子どもの作品のアップロードを行いました。



本の海大冒険の充実

平成26年度にリニューアルしたインターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」に新刊図書データの追加し、いっそうの充実を図りました。
協力：株式会社ジャスティス

子ども読書活動の 推進のために

大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内の子ども読書活動推進のため、「大阪府社会教育委員会（2回）」、「大阪府社会教育委員会連絡協議会（2回）」および「大阪読書活動推進ネットワークフォーラム企画運営委員会（2回）」に委員として参加しました。

内容 もりだくさん! メルマガ発行、 ぜひ会員登録を

毎月メルマガガジンを発行しています。発行は、月1回、毎月20日に配信しています。登録は無料です。皆さまの登録をお待ちしています。

平成29年7月20日現在、登録数は2336人です。内容例は左記のとおり。

1 お知らせ
財団からのお知らせコーナー

2 コラム
1) 新刊書の紹介
専門職員が理事長、児童文学者と毎月一冊の本を選んで対談します。本に対する新しい見方が発見できます。

2) 児童文学作家や作品についてのエッセイ
宮沢賢治作品などについて興味深いポイント、理事長と専門職員が交互に紹介します。

3) 読書活動ボランティアのためのワンポイント
読書活動を行っているボランティアさんのための連続講座。絵本の選び方、読み方など、基本的なポイントを説明しています。

4) 行って来ました!
展覧会や映画、講演会など、子ども文化に関わる催しのレポート

3) 全国のイベント紹介
他団体等が実施するイベントを紹介

4) プレゼント
今号でとりあげた本やイベントグッズを抽選でプレゼントします。

共同研究を行いました

●近代日本児童出版文化史の研究
—明治期における博文館出版文化の内容と特質—
博文館の児童出版文化についての調査研究を外部研究者とともに行いました。

- 研究会の開催（4回）
- 研究メンバー：浅岡靖央（白百合女子大学教授）、酒井晶代（愛知淑徳大学教授）、目黒強（神戸大学准教授）、遠藤純（当財団特別専門員）/京都華頂大学准教授・専門員/京都華頂大学准教授・研究代表者、小松聡子（当財団特別専門員）、土居安子（当財団総括専門員）
- 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究（C）平成26～28年度

三年間の研究を通して、まずは、明治期を代表する出版社である博文館の雑誌内容目次を作成（『日本之少年』『幼年雑誌』『幼年世界』など約400冊）しました。

またそれらのデータを活用しながら、共同研究メンバーによって博文館の初めての本格的な少年雑誌である『少年世界』の研究を行いました。巖谷小波研究、読者投稿欄の研究、他雑誌との比較研究、当時の文学観の研究などを行うと同時に、博文館の児童向け図書の研究、巖谷小波の口演童話活動の研究や久留島武彦の『お伽俱樂部』研究等のメディアアイベントに関わる研究も行いました。今後はこの研究を発展させ、大正期における児童出版文化を考察し、歴史的視点から現代の児童出版文

化、および児童文化のありようについて研究を継続する予定です。

論文集

『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第30号の発行

今号も、大阪府立中央図書館国際児童文学館の資料を活用した研究論文を公募しました。5編の応募があり、3編を採用しました。

目次

- 大町桂月の修養主義的文学観 目黒強
- お伽俱樂部はいつ始まったのか—お伽俱樂部研究序説— 浅岡靖央
- 雑誌『少年』（時事新報社）細目（五） 遠藤純
- 『少年少女譚海』（博文館）の内容と特質—『少年俱樂部』（大日本雄弁会講談社）との比較を通して— 土居安子

【研究ノート】
『少年世界』のお伽幻燈隊、お伽芝居と児童用映画—幻燈・演劇活動写真— 福島可奈子

1910年代の『子供之友』における画家の起用とその変遷—北澤楽天を中心に— 高木佳子

2000年～2009年における『桃太郎』話の読み方、読まれ方 大藤幹夫

【研究プロジェクト活動報告】
『近代日本児童出版文化史の研究—明治期における博文館出版文化の内容と特質—』

遠藤純

出版や展示の企画を行いました

貴重な資料の複製や作家選集、論文集など児童文学・児童文化に関する各種出版事業の相談に応じています。

●「進研ゼミ電子図書館まなびライブラリー」
株式会社ベネッセコーポレーションから受託し、選書の支援を行いました。

●「出版社等による企画協力業務の受託『コープのえほんでスマイル』」
大阪いずみ市民生活協同組合から受託し、絵本選定、ガイドブック原稿作成を行いました。

●「資料を販売しています」
『2016年度国際交流事業報告 集国際フォーラム』いまアメリカの子どもの本を考へる』
『2015年度国際交流事業報告 集国際講演会』イギリスの絵本作家エミリー・グラヴェットに生きたる子ども向け絵本づくりワークショップ』
『フォーラム報告集』児童文学とは何かを問い続けて—児童文学者鳥越信の仕事を顧みる』

資料を販売しています

『2013年度国際交流事業報告 集絵本作家ローレン・チャイルド 自作を語る—あたしのなやみは無限大—子ども向け絵本づくり』

『2010年度国際交流事業報告 集アジアの絵本シンポジウム』絵本は国境を越える—中国語圏の絵本の現在—』

『国際児童文学館紀要』1号～26号
『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』27号～30号
13000円～14000円

『論文集』インドの絵本、『中国の絵本』など多数あります。ご希望の方はお問い合わせください。価格は税別。

ワークショップ』
10000円
『フォーラム報告集』子どもの文学と文化を問い続けて—児童文学者中山正文の仕事を顧みる』
14000円

『2012年度国際交流事業報告集』絵本作家デイヴィッド・ウィーズナーの世界 絵は物語る／子ども向け絵本づくりワークショップ』
10000円

『2011年度国際交流事業報告集』オーストラリアの絵本の魅力 ショーン・タン自作を語る／子ども向け絵本づくりワークショップ』
10000円

『2010年度国際交流事業報告集』アジアの絵本シンポジウム 絵本は国境を越える—中国語圏の絵本の現在—』
5000円

『国際児童文学館紀要』1号～26号
10000円～19000円

『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』27号～30号
13000円～14000円

『論文集』インドの絵本、『中国の絵本』など多数あります。ご希望の方はお問い合わせください。価格は税別。

資料のご寄贈をありがとうございます

今年度も出版社、作家、研究者、同人誌サークルなどから、児童書や児童書に関する資料などの寄贈をいただきました。これらの資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継ぎました。

（ご寄贈いただいた方々のお名前

は別紙をご覧ください）
図書 2,892冊
雑誌 3,056冊
その他資料 985点
計 6,933点

寄付金募集のお願い!

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。ご協力をお願いいたします。

◆うちよ銀行振替口座に払い込みください。

【口座番号】
00910・8・2820098

【加入者名】

一般財団法人大阪国際児童文学振興財団
※他の金融機関からの振込の場合
店名：〇九九店（ゼロキウキウ）
支店：〇九九店（ゼロキウキウ）
当座／口座番号：02820098

◆平成28年度は、1522件

1,613,368円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。（ご寄付いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください）

編集後記

「大阪国際児童文学振興財団レポート第7号」をお届けいたします。当レポートでは、平成28年度に実施しました主な事業を掲載しています。公式の事業報告、決算報告はホームページで公開しています。

図書資料の寄贈・寄付金・各種の事業協力など、皆さま方のご支援・ご協力に深く感謝いたします。引き続き皆さま方のご支援をお願い申し上げますとともに、当財団の運営について、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。